



平成29年3月期 決算報告

クボテック株式会社

概要

- ◎フラットパネルディスプレイ(FPD)分野では、FPDメーカーの設備投資は一部において引き続き堅調で、液晶や有機ELなどで設備投資が継続されました。
- ◎当期は、売上は前期を上回り損益も黒字となりましたが、売上、利益ともに当初計画を下回りました。画像処理外観検査装置などの受注は好調で、前期を大きく上回る受注残を確保することができました。
- ◎新製品として、有機ELや電池関連の機能性フィルム向け検査装置の受注、売上が増加しており、また3DCADシステムの国内、海外での収益拡大にも取り組んでおります。一方、新規事業の次世代フライホイール蓄電システムは、事業化に向け準備を加速しております。
- ◎こうした状況から、当期決算短信において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消しました。当社グループは、引き続き新規事業、新製品の開発をはじめ、コスト削減などの対策と事業構造の改革にも取り組み、安定した売上と利益の確保に努めてまいります。

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成29年3月期)	前期 (平成28年3月期)	来期予想 (平成30年3月期)
売上高	2,731	2,636	3,400
営業利益	26 (1.0%)	△ 134 (△5.1%)	220 (6.5%)
経常利益	12 (0.4%)	△ 150 (△5.7%)	200 (5.9%)
当期純利益	0.9 (0.03%)	△ 168 (△6.4%)	170 (5.0%)

◎当期損益は、客先の投資計画見直しなど減収による影響から、当初計画は下回りましたが、収益性の高い国内向け製品などの売上が増加したことから、前期の赤字から黒字となりました。

◎海外子会社は、売上が減少するなど計画を下回りましたが、米国子会社では事業再構築を進め、収益性の改善を図り、連結業績に寄与しました。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成29年3月期)		前期 (平成28年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	971	29.0	1,373	39.6
売上債権	1,019	30.5	743	21.5
たな卸資産	397	11.9	414	11.9
その他	△ 62	△ 1.9	△ 60	△ 1.7
固定資産	1,020	30.5	996	28.7
資産計	3,346	100.0	3,466	100.0
流動負債	1,864	55.7	1,795	51.8
固定負債	394	11.8	586	16.9
負債計	2,259	67.5	2,381	68.7
資本金	1,951	58.3	1,951	56.3
利益剰余金	△ 801	△ 23.9	△ 802	△ 23.2
その他	△ 62	△ 1.9	△ 64	△ 1.8
純資産計	1,087	32.5	1,084	31.3
負債及び純資産計	3,346	100.0	3,466	100.0

◎総資産は、前期末に比べ、売上債権などの増加と現預金の減少で、33億4千万円となりました。

◎負債は、前期末に比べ、借入金が2億6千万円減少するなど、22億5千万円となりました。

◎純資産は、前期末に比べ、純利益の増加などから10億8千万円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当期 (平成29年3月期)		前期 (平成28年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日本	2,148	78.7	1,538	58.4
米国	424	15.5	470	17.8
韓国	158	5.8	627	23.8
計	2,731	100.0	2,636	100.0
うち海外	1,391	50.9	1,754	66.6

◎日本では、主力製品である画像処理外観検査装置の売上が、当初計画を下回りましたが、前期に比べ大幅に増加しました。

◎米国では、3次元CADソフトウェア「KEYCREATOR」の売上が伸び悩み、また為替の影響もあり減収となりました。
より競争力のある製品開発に向けて、営業と開発が一丸となって収益改善に取り組みました。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連部品の販売や改造工事が前期に比べ、大幅に減少しました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成29年3月期)	前期 (平成28年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	43	64
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 103	△ 147
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 265	170
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 14	△ 6
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 340	80
VI.現金及び現金同等物の期首残高	1,280	1,199
VII.現金及び現金同等物の期末残高	939	1,280

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加はあるものの、仕入債務の増加、減価償却、純利益の計上などから4千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、3DCADシステムの開発投資などで1億円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行借入の返済により2億6千万円の支出となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成29年3月期)	前期 (平成28年3月期)
受注高	3,024	1,666
受注残高	1,709	678

- ◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、FPDメーカーの設備投資が活発化し、中国をはじめ海外、国内ともに受注は大幅に増加しました。
- ◎従来の液晶に加えて有機ELや機能性フィルム向けなどの検査装置の開発、営業を強化し、新規分野の開拓を進めた結果、これら検査装置の引合、受注高は増加傾向にあります。